

PRESS RELEASE

新国立劇場 2023/2024シーズン 演劇

シェイクスピア、ダークコメディ交互上演

『尺には尺を』『終わりよければすべてよし』

新国立劇場シェイクスピア歴史劇シリーズのチームが堂々再集結！
“ダークコメディ(暗い喜劇)”と呼ばれる二作の日本初の交互上演に
岡本健一、浦井健治、中嶋朋子、ソニンらが挑む！



ソニン

岡本健一



中嶋朋子

浦井健治

2023年10月18日(水)～11月19日(日) 新国立劇場 中劇場
8月11日(金・祝)10:00～ 一般前売開始！

【写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ】

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 杉田
TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737
E-mail: sugita_a8863@nntt.jac.go.jp
〒151-0071 東京都渋谷区本町 1-1-1



新国立劇場

<http://www.nntt.jac.go.jp>

2023/2024 シーズンは、シェイクスピア二作品の交互上演でスタート！

『尺には尺を』と『終わりよければすべてよし』の二作品は、シェイクスピアの戯曲のなかでは上演回数もそれほど多くはなく、またどちらも、最初の全集では“喜劇”に分類されていますが、ストーリーもやや複雑で、登場人物も屈折したキャラクターが多く、“ダークコメディ(暗い喜劇)”と呼ばれています。

しかし、単に暗いだけではなく、人間の内面、時に自我と欲望をむき出しにした登場人物たちは、同時期に書かれた『ハムレット』から始まる四大悲劇の主人公たちを彷彿させる、魅力的で深い人物造形に満ち、物語も終幕に至るまで、息をもちかせず展開するなど、隠れた傑作と言っても過言ではありません。

また、この二作は時をおかず執筆されたと推測され、ストーリー的にも同じテーマを持つ、表裏一体のような戯曲であり、交互上演にこそ意味があると考えます。さらに、シェイクスピア作品の中では、数少ない、女性が物語の主軸となる作品でもあり、両作品とも登場人物たちは降りかかる困難に果敢に立ち向かい、世の理不尽を白日の下にさらします。

そこで、2023/2024 シーズンの開幕は、この二つの作品を交互上演する、という前代未聞の企画に挑みます。悲劇とも喜劇ともつかない、その結末から「問題劇」とも分類される、この二作品を交互に上演することで、現代劇かとも思わせる、シェイクスピアの鋭い視点と同時代性が浮かび上がることでしょう。

演出は、「新国立劇場シェイクスピア歴史劇シリーズ」の鶴山 仁があたり、出演は岡本健一、浦井健治、中嶋朋子をはじめとするこのシリーズお馴染みの俳優陣と、今回新たに参加するメンバーが顔を揃えました。さらに『ヘンリー六世』以来、14年ぶりに新国立劇場シェイクスピア作品の出演となるソニンにも期待が高まります。

12年に亘りシェイクスピアの歴史劇を上演してきた新国立劇場のカンパニーだからこそできる、チャレンジングな企画に、どうぞご期待ください。



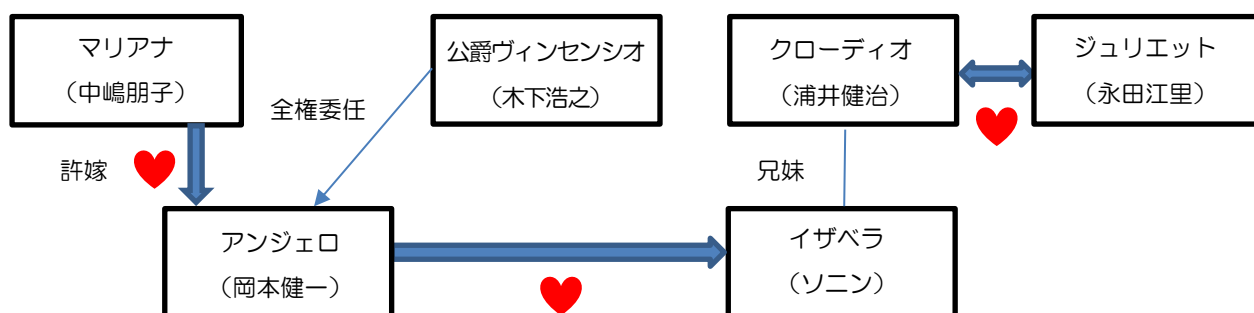
あらすじ

【尺には尺を】

ウィーンの公爵ヴィンセンシオ(木下浩之)は、突然出立すると告げ、後事を代理アンジェロ(岡本健一)に託し旅に出る。だが実は、密かにウィーンに滞在したまま、アンジェロの統治を見届ける目的があった。というのも、ウィーンではこのところ風紀の乱れが著しく、謹厳実直なアンジェロが、法律に則りそれをどう処理するのか見定めようというのだ。

そんな法律のなかに、結婚前の交渉を禁ずる姦淫罪があり、19年間一度も使われたことがなかった。アンジェロはその法律を行使し、婚姻前にジュリエット(永田江里)と関係を持ったクローディオ(浦井健治)に死刑の判決を下す。だがクローディオはジュリエットと正式な夫婦約束を交わしており、情状酌量の余地は十分にあったのだ。それを知ったクローディオの妹、修道尼見習いのイザベラ(ソニン)は、兄の助命嘆願のためアンジェロの元を訪れる。兄のために懸命に命乞いをするイザベラの美しい姿に、アンジェロの理性は失われ、自分に体を許せば兄の命は助ける、という提案をする。それを聞いたイザベラはアンジェロの偽善を告発すると告げるのだが、彼は一笑に付し、「誰がそれを信じる？お前の真実は、私の虚偽には勝てぬ」とイザベラに嘯く。

クローディオの命は？イザベラの貞節は？すべてはアンジェロの裁量に委ねられる。



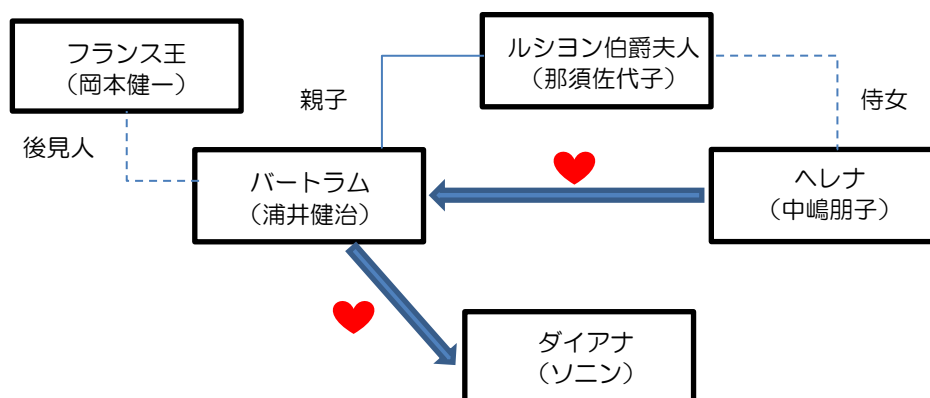
【終わりよければすべてよし】

ルシヨン伯爵夫人(那須佐代子)には一人息子バートラム(浦井健治)がいた。彼はフランス王(岡本健一)に召しだされ、故郷を後に、パリへと向かう。だが王は不治の病に蝕まれ、命は長くないと思われていた。

もう一人、伯爵夫人の元には侍女として育てていたヘレナ(中嶋朋子)という娘がいて、その父は、先ごろ他界した高名な医師だった。彼はヘレナに、万病に効く薬の処方箋を残していた。そしてヘレナは、実は密かに、身分違いのバートラムのことを慕い、妻になりたいと願っていた。

その想いを知った伯爵夫人は、ヘレナにバートラムを追ってパリへ向かうことを許す。パリに到着したヘレナは王に謁見し、亡父から託された薬で王の病を見事に治してみせる。王は感謝の印として、ヘレナに望みのものを褒美として与える約束をする。ヘレナはバートラムとの結婚を望むが、彼はそれを拒否し、自ら志願して、逃げるように戦地フィレンツェへ赴いてしまう。残された手紙には「私を父親とする子供を産めば、私を夫と呼ぶがいい。だがその時は決して来ないだろう。」と認められていた。

ヘレナは単身、バートラムを追ってフィレンツェへと旅立つ。愛する彼と結ばれるために。



配役

役名:『尺には尺を』(上段)、『終わりよければすべてよし』(下段)



岡本健一
アンジェロ
フランス王



浦井健治
クローディオ
バートラム



中嶋朋子
マリアナ
ヘレナ



ソニン
イザベラ
ダイアナ



立川三貴
典獄
ラフュー



吉村 直
バーナーダイク/
紳士1
ラヴァッチ



木下浩之
ヴィンセンシオ
フィレンツェ公爵



那須佐代子
オーヴァーダン
ルシヨン伯爵夫人



勝部演之
判事
リナルドー



小長谷勝彦
ポンピー
兵士2



下総源太郎
エスカラス
デュメーン兄



清原達之
ルーシオ
デュメーン弟



藤木久美子
フランシスカ
キャピレット



川辺邦弘
エルポー/紳士2
兵士1



亀田佳明
フロス/
アブホーソン
ペーローレス



永田江里
ジュリエット
マリアナ



内藤裕志
ピーター
紳士



須藤瑞己
召使い
従者



福士永大
使者
小姓

演出 鶴山 仁からのメッセージ

物の見た目や物を見る立場が変わると、人の心は他愛無く変化してしまう。加害者のはずが被害者になり、被害者のはずが加害者になる。とすれば「生」の世界はたちまち「死」の世界に、「死」の世界がもしかしたら「生」の世界に反転するかもしれない。『尺には尺を』と『終わりよければすべてよし』。この二つの「問題劇」にしかけられた二つのベッドトリックは、そんな人生と世界の変容を象徴しているような気がします。

三年に及ぶコロナ禍、僕にとって驚きだったのは、目にも見えない、生物だか無生物だかも判然としないウイルスという存在に、世界がここまで翻弄されてしまったことです。そして昨年二月以来のロシアによるウクライナ侵攻は、「戦争」が、実は平穏に見えたわれわれの日常の、すぐ隣に息を潜めていたことを痛感させました。

われわれの目に見えていたのはなんと狭い世界だったのか、ならば舞台という特権的な場では、生きている現実の人間だけではなく、目には見えない世界、死者たちの歴史や、ウイルスも含めた森羅万象、あらゆるものとの交信を心がけたい。ここでは日常生活の利害、効率、善悪を一旦度外視した、遠大、深遠なコミュニケーションが求められます。そのためにあらゆる手段を動員して見えない者たちに呼びかけ、見えない者たちの呼びかけに応えたい。

2009年の『ヘンリー六世』から2020年の『リチャード二世』に至るまで、新国立劇場の舞台上、シェイクスピアの歴史劇を創ってきた仲間たちとの新しいチャレンジ。これを機会に是非、もう一步先の世界に、分け入ってみたいと思っています。

スタッフプロフィール

作: ウィリアム・シェイクスピア William SHAKESPEARE

イギリス、エリザベス朝の劇作家、詩人。1564年－1616年。

生涯に37本を越える劇作を残し、死後出版された全集ではその作品が喜劇、歴史劇、悲劇に分類された。そのうち喜劇は16本を数える。19世紀以降の呼び名だが、『ハムレット』『尺には尺を』『終わりよければすべてよし』『トロイラスとクレシダ』の四作品を問題劇と称すこともある。また、『尺には尺を』はワーグナー初期の歌劇『恋愛禁制』の原作としても知られる。

37本の作品群は21世紀の今日に至るまで、本国イギリスは言うに及ばず全世界で上演され続けている。我が国でも、明治期に翻案作品が紹介されて以来さまざまな形で上演され、伝統芸能から小劇場の公演まで広範囲に影響を与えている。

演出: 鶴山 仁 UYAMA Hitoshi

舞台芸術学院、文学座附属演劇研究所を経て、1981年、文学座座員に。83年から1年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在。2020年、紫綬褒章受章。21年、第62回毎日芸術賞受賞。

最近の演出作品に『廃墟』『トロイラスとクレシダ』『マンザナ、わが町』『ヴェニス商人』『怪談 牡丹灯籠』『女中たち』『化粧二題』『叔母との旅』『紙屋町さくらホテル』『スカラムーシュ・ジョーンズ or 七つの白い仮面』から騒ぎ』『吾輩は漱石である』『ミュージカル 洪水の前』『夏の夜の夢』など。

新国立劇場では『リチャード二世』『ヘンリー五世』『ヘンリー四世』『桜の園』『リチャード三世』『イロアセル』『ヘンリー六世』『現代能楽集 鶴』『舞台は夢』『オットーと呼ばれる日本人』『アルゴス坂の白い家』『カエル』『花咲く港』『コペンハーゲン』『新・地獄変』『新・雨月物語』『リア王』、オペラ『鹿鳴館』『カルメン』を演出。

『ヘンリー六世』の演出で10年芸術選奨文部科学大臣賞、第17回読売演劇大賞 最優秀演出家賞を受賞。04年、16年にもそれぞれ読売演劇大賞 最優秀演出家賞を受賞している。07年9月より10年8月まで新国立劇場演劇部門芸術監督を務めた。

出演者プロフィール



岡本健一 OKAMOTO Kenichi

【尺】アンジェロ 【終】フランス王

1985年、ドラマ『サーティン・ボーイ』、88年には男闘呼組のメンバーとして歌手デビュー。その後、ドラマ、映画、舞台と幅広く活躍。2011年『恋人』、12年『地獄のオルフェウス』、22年『破戒』などで演出家としても活動。『タイタス・アンドロニカス』で第12回、『ヘンリー六世』で第17回読売演劇大賞優秀男優賞、『岸 リトラル』『ヘンリー五世』で第26回読売演劇大賞最優秀男優賞、『海辺のカフカ』『終夜』で第45回菊田一夫演劇賞受賞。21年『リチャード二世』で第55回紀伊國屋演劇賞個人賞、第71回芸術選奨文部科学大臣賞(演劇部門)受賞。22年春に紫綬褒章を受章。

【近年の舞台】『建築家とアッシリア皇帝』『Le Fils 息子』『森 フォレ』『グレイクリスマス』など。新国立劇場では、『リチャード二世』『ヘンリー五世』『ヘンリー四世』『アルトナの幽閉者』『リチャード三世』『ヘンリー六世』『氷屋来たる』『母たちの国へ』『今宵かぎりは…』に出演。



浦井健治 URAI Kenji

【尺】クローディオ 【終】ハートラム

2000年、ドラマ『仮面ライダークウガ』でデビュー。04年、『エリザベート』のルドルフ皇太子役に抜擢。以降、ミュージカル、ストレートプレイ、映像、アルバムリリース、ソロコンサートなど幅広い活動を展開。『ヘンリー六世』で第44回紀伊國屋演劇賞個人賞、第17回読売演劇大賞杉村春子賞、『星ノ数ホド』他で第22回読売演劇大賞最優秀男優賞、『ヘンリー四世』他で第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞(演劇部門)など受賞多数。

【主な舞台】『家族モドキ』『アルジャーノンに花束を』『キングアーサー』『COLOR』『ガイズ&ドールズ』『笑う男』『王家の紋章』『天保十二年のシェイクスピア』『ビッグ・フィッシュ』『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』『メタルマクベス disc3』『デスノート THE MUSICAL』『トロイラスとクレシダ』など。

新国立劇場では、『リチャード二世』『ヘンリー五世』『ヘンリー四世』『あわれ彼女は娼婦』『星ノ数ホド』『リチャード三世』『ヘンリー六世』に出演。



中嶋朋子 NAKAJIMA Tomoko

【尺】マリアナ 【終】ヘレナ

1981年からのドラマ『北の国から』で22年間、蛍役を務める。その後、映画、舞台へと活動の場を広げ、唯一無二の存在感で、国内外の演出家からの熱い信頼を得る。

俳優業の他にもナレーションや朗読、執筆活動においても、そのみずみずしい感性で根強いファンを持つ。『ヘンリー六世』で第44回紀伊國屋演劇賞個人賞、第17回読売演劇大賞優秀女優賞を受賞。待機作として、成田洋一監督 映画「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」が12月公開予定。また、2024年3月に上演予定の、自身がプロデュースする朗読企画を準備中。

【主な舞台】『誰にも知られずに死ぬ朝』『お気に召すまま』『女中たち』『岸 リトラル』『エレクトラ』『かもめ』『おそるべき親たち』『おやすみ、かあさん』『血の婚礼』『私生活』など。新国立劇場では、『リチャード二世』『ヘンリー五世』『リチャード三世』『ヘンリー六世』『CLEANSKINS/きれいな肌』『ガラスの動物園』に出演。



ソニン Sonim

【尺】イザベラ 【終】ダイアナ

2000年、音楽ユニットで歌手デビュー。02年、ソロデビュー後、女優としてドラマ、映画、舞台などに出演。03年、第40回ゴールデン・アロー賞音楽新人賞受賞。12年、文化庁新進芸術家海外研修制度の研修員としてニューヨークに渡る。16年、『トロイラスとクレシダ』『RENT』『ダンス オブ ヴァンパイア』で第41回菊田一夫演劇賞受賞。19年、『1789-バステューの恋人たち-』『マリー・アントワネット』で、第26回読売演劇大賞優秀女優賞受賞。また近年では『となりのチカラ』(ANB)、『大病院占拠』(NTV)など映像作品にも多数出演。

【主な舞台】『FACTORY GIRLS~私が描く物語~』『Kinky Boots』『ミス・サイゴン』『スウィーニー・トッド』など。新国立劇場では、『フリック』『三文オペラ』『ヘンリー六世』に出演。

公演概要

【タイトル】シェイクスピア、ダークコメディ交互上演『尺には尺を』『終わりよければすべてよし』

【スタッフ】

作：ウィリアム・シェイクスピア

翻訳：小田島雄志

演出：鶴山 仁

美術：乗峯雅寛

照明：服部 基

音響：上田好生

衣裳：前田文子

ヘアメイク：馮 啓孝

演出助手：中嶋彩乃

舞台監督：北条 孝

芸術監督：小川絵梨子

【キャスト】

岡本健一 浦井健治 中嶋朋子 ソニン

立川三貴 吉村 直 木下浩之 那須佐代子 勝部演之

小長谷勝彦 下総源太郎 清原達之 藤木久美子 川辺邦弘

亀田佳明 永田江里 内藤裕志 須藤瑞己 福士永大

【会場】 新国立劇場 中劇場

【公演日程】2023年10月18日(水)～11月19日(日)

【料金(税込)】

S席 8,800円/A席 6,600円/B席 3,300円 *2作品通し券(S席のみ) 15,800円

【一般発売】 2023年8月11日(金・祝) 10:00～

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

* **2席1,650円** 2席(各日16席)は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブンイレブンの端末操作により全席先着販売いたします。※先着販売後、残席がある場合は、公演当日朝11:00からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、2席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約可。* **各種割引** 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障がい者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生20%)、アトレ会員割引(5～10%)など各種の割引サービスをご用意しています。

【託児のご案内】 下記日程は託児室<キッズルーム「ドレミ」>がご利用になれます。(定員制/要予約/有料)

<尺には尺を>10月20日(金)13:00公演/11月12日(日)13:00公演

<終わりよければすべてよし>10月28日(土)13:00公演/11月8日(水)13:00公演

* 受付開始日:8月11日(金・祝)～

新国立シアタートーク

10/25(水) 13:00 公演終了後

出演:鶴山 仁、岡本健一、浦井健治、中嶋朋子、ソニン

司会:中井美穂

歴史劇皆勤賞トーク

「新国立劇場シェイクスピア歴史劇シリーズ」全作品に出演した俳優によるトークも開催!

10/31(火)13:00 公演終了後

出演:岡本健一、勝部演之、那須佐代子、川辺邦弘

11/7(火) 13:00 公演終了後

出演:浦井健治、立川三貴、木下浩之、小長谷勝彦

目や耳に障がいのあるお客様への観劇サポート

本公演では視覚・聴覚に障がいのあるお客さまへ、観劇サポートをご提供いたします。

※サポートは無料。要予約、定員あり。

【受付開始日】8月11日(金・祝)10:00～

【尺には尺を】

目に障がいのあるお客様向け (開演前舞台説明会&リアルタイム音声ガイド)	① 10月29日(日)	13:00 開演
	② 11月16日(木)	13:00 開演
耳に障がいのあるお客様向け (ポータブル字幕機の貸し出し)	① 11月11日(土)	18:00 開演
	② 11月12日(日)	13:00 開演

【終わりよければすべてよし】

目に障がいのあるお客様向け (開演前舞台説明会&リアルタイム音声ガイド)	① 11月11日(土)	13:00 開演
	② 11月18日(土)	13:00 開演
耳に障がいのあるお客様向け (ポータブル字幕機の貸し出し)	① 11月5日(日)	13:00 開演
	② 11月11日(土)	13:00 開演



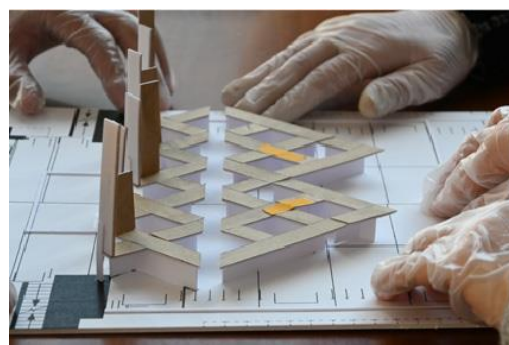
劇場前の表示



受付には、手話通訳者と要約筆記者も



開演前舞台説明会の様子



舞台模型に触って、形状を体感している様子

12年に亘って完結！新国立劇場シェイクスピア歴史劇シリーズ

『ヘンリー六世』第一部 百年戦争／第二部 敗北と混乱／第三部 薔薇戦争（2009年上演）



撮影：谷古宇正彦

作：ウィリアム・シェイクスピア

翻訳：小田島雄志

演出：鶴山 仁

出演：浦井健治、中嶋朋子、岡本健一、渡辺 徹、村井国夫、ソニン、木場勝己、中嶋しゅう、上杉祥三、立川三貴、木下浩之、久野綾希子、鈴木慎平、今井朋彦、金内喜久夫、菅野菜保之、勝部演之、鈴木瑞穂、吉村 直、水野龍司、青木和宣、瀧野俊太、那須佐代子、浅野雅博、小長谷勝彦、石橋徹郎、清原達之、城全能成、関戸将志、篠原正志、小田 悟、川辺邦弘、松角洋平、津村雅之、古河耕史、内田亜希子、前田一世、高橋郁哉

<受賞歴>

第17回読売演劇大賞 大賞・最優秀作品賞

『リチャード三世』（2012年上演）



撮影：谷古宇正彦

作：ウィリアム・シェイクスピア

翻訳：小田島雄志

演出：鶴山 仁

出演：岡本健一、中嶋朋子、浦井健治、勝部演之、立川三貴、倉野章子、木下浩之、今井朋彦、吉村 直、青木和宣、那須佐代子、小長谷勝彦、森 万紀、清原達之、城全能成、関戸将志、篠原正志、川辺邦弘、松角洋平、津村雅之、前田一世、浦野真介、梶原 航

『ヘンリー四世』 第一部：混沌／第二部：戴冠（2016年上演）



撮影：谷古宇正彦

作：ウィリアム・シェイクスピア

翻訳：小田島雄志

演出：鶴山 仁

出演：浦井健治、岡本健一、勝部演之、立川三貴、綾田俊樹、ラサール石井、水野龍司、木下浩之、有菌芳記、今井朋彦、青木和宣、田代隆秀、那須佐代子、小長谷勝彦、下総源太郎、鍛冶直人、川辺邦弘、佐川和正、亀田佳明、松角洋平、松岡依都美、藤側宏大、岡崎加奈、清水優譲、中嶋しゅう、佐藤B作

『ヘンリー五世』(2018年上演)



撮影: 谷古宇正彦

作: ウィリアム・シェイクスピア

翻訳: 小田島雄志

演出: 鶴山 仁

出演: 浦井健治、岡本健一、中嶋朋子、立川三貴、水野龍司、吉村 直、木下浩之、田代隆秀、浅野雅博、塩田朋子、横田栄司、那須佐代子、勝部演之、金内喜久夫、小長谷勝彦、下総源太郎、櫻井章喜、清原達之、鍛冶直人、川辺邦弘、亀田佳明、松角洋平、内藤裕志、田中菜生、鈴木陽文、小比類巻諒介、玲央バルトナー

『リチャード二世』(2020年上演)



撮影: 引地信彦

作: ウィリアム・シェイクスピア

翻訳: 小田島雄志

演出: 鶴山 仁

出演: 岡本健一、浦井健治、中嶋朋子、立川三貴、勝部演之、吉村 直、木下浩之、田代隆秀、一柳みる、大滝 寛、浅野雅博、那須佐代子、横田栄司、小長谷勝彦、下総源太郎、原 嘉孝、櫻井章喜、石橋徹郎、清原達之、鍛冶直人、川辺邦弘、亀田佳明、松角洋平、内藤裕志、椎名一浩、宮崎隼人

<受賞歴>

第 28 回読売演劇大賞 最優秀作品賞

第 13 回小田島雄志・翻訳戯曲賞 特別賞: 新国立劇場シェイクスピア歴史劇シリーズ